

次世代自動車・スマートエネルギー特区

[指定：平成23年12月、認定：平成24年7月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(3+3.5)/2=3.3$

3.3

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	ハイパーエネルギーステーション(HES)の整備箇所数	50%	3
2	認証スマートホーム(共通プラットフォーム接続)の戸数	0%	1
3	スマートホーム・コミュニティ(強くしなやかな低炭素型コミュニティモデル)の街区数	100%	5
4	新たな低炭素型パーソナルモビリティの開発<<定性的評価>>	-	-

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 1 + 4 \times 0 + 3 \times 1 + 2 \times 0 + 1 \times 1) / 3 = 3$

3.0

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

※2) 数値目標2は複数の数値目標があり、※1のとおり各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均しているため、進捗度と評点が整合しない。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

3.5

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 $(3.3+3.3+4.3)/3=3.6$

3.6

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

3.3

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.3

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

4.3

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.5

- ・未達成の項目や外的要因で予定どおりに進捗していない項目もあるが、熱心な取組みを行っていると思われ、全体としては適当である。
- ・住宅とモビリティを融合した新しいスマートシティを構築しようとするもので、災害時のエネルギー供給を重視した各種エネルギー供給ステーションの構築など意欲的な取り組みと評価できる。
- ・市のエネルギービジョンや地球温暖化対策実行計画の中に特区3事業を位置付けて、市としての導入方針を明確にしていることが評価される。
- ・レジリエンスステーションや低炭素型パーソナルモビリティが整備される令和元年度にあわせて、エコリフォーム事業の進捗遅れを取り戻し、特区最終年度にふさわしい環境未来都市モデルの姿を具現化されることを期待したい。
- ・次世代自動車からスマートまちづくりに特区事業の推進の中で重点分野がシフトしていること自身は、グリーンイノベーションとしては適切であり、総合的なまちづくりの実現等を適切に評価することが必要であると判断する。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.5

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(3.3+3.6+3.5 \times 2) \div 4 = 3.5$

3.5

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。